

令和3年11月16日

(配布先)

支店長・副支店長
施工担当部署長、建設所長
副部長、副所長、統括工事長
安全長・安全主任
工事長・工事主任
関西支店取引業者災害防止協議会

関 西 支 店
安全環境部長

コンクリート内の埋設インフラの事前調査について（要請）

過日、建物改修工事作業所において、次表のとおりコンクリートスラブ内のインフラ埋設物を損傷するという事案が2件連続して発生しました。

	A事案	B事案
発生日時	R3. 9. 30 14:40頃	R3. 10. 13 14:25頃
発生状況	厚180mmの天井スラブ下から、あと施工アンカー打設のため削孔して、深さ80mmにあった電灯配線を損傷	厚150mmのスラブ床上から、φ50mmのコアボーリングを行い、深さ90mmにあったハロン消火設備配管配線を損傷
被害状況	当該室内及び隣室照明が不点灯	消火設備が誤発報
事前調査	・埋設図面を入手していたが、位置がずれていた。 ・電磁波レーダー探査を実施したが、不検出。	・図面等が秘匿情報であったため、埋設インフラ情報は得られなかった。他業者から「埋設物はない」との不確かな情報は得ていた。 ・電磁波レーダー探査を実施したが、不検出。
その他		後日、取扱説明書通りに再調査したところ検出できた。

つきましては、コンクリート内のインフラ埋設物損傷事故を防止するため、下記事項を厳守するよう関係者に周知願います。

記

1. 改修工事等で、あと施工アンカーやコアボーリング等を行う場合は、電磁波を用いた探査機でコンクリート内のインフラを確認する。
2. 電磁波を用いた探査方法には原理が異なる種類があり、塩ビ管等非金属を検出できない場合もある。専門調査会社に依頼せずに探査機等を使用して調査を行う場合は、経験者であっても取扱説明書に従い実施する。
3. 電磁波を用いた探査機を使用する場合は、既知の埋設物が探知できるか試行するなどして探査機の能力を確認する。

以 上

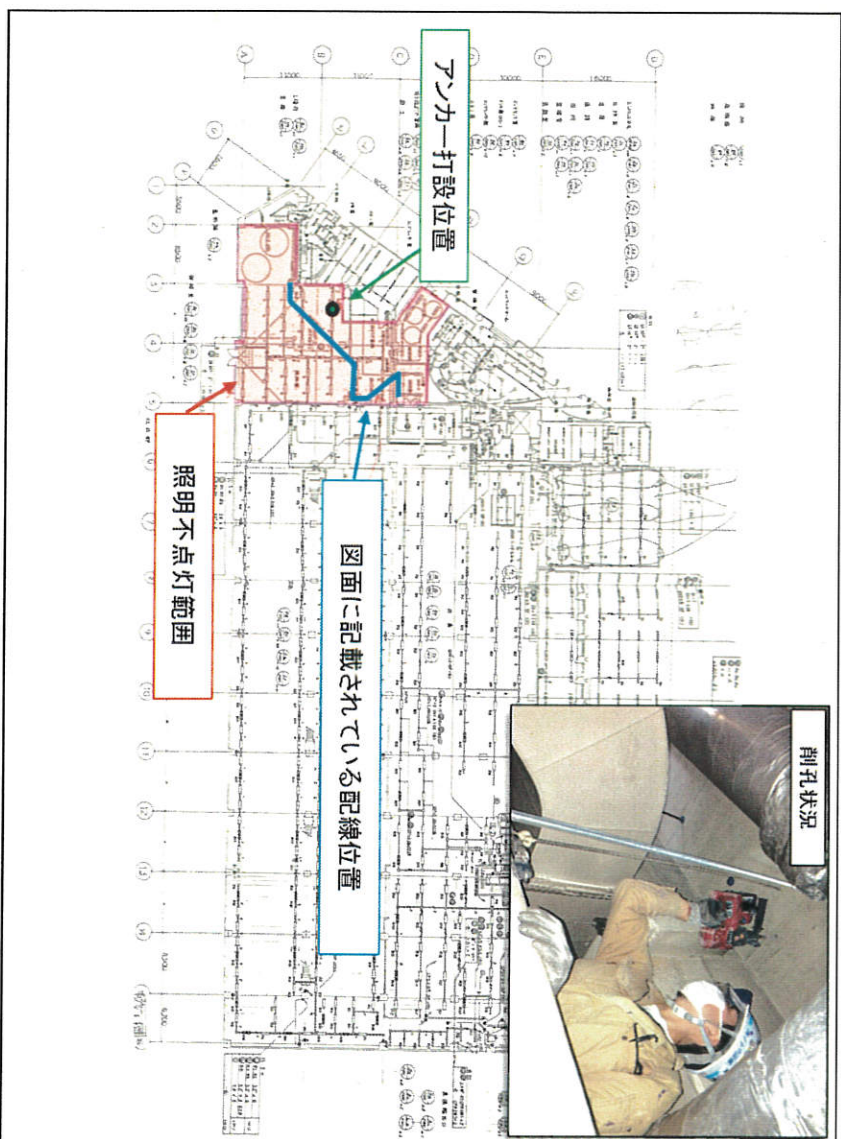
※この事務連絡は、事務連絡21-36(令和3年11月11日)安全環境本部発行に基づき作成しました

(その他) 天井アンカー打設時におけるスラブ内電灯配線の損傷

- ◇ 発生日時 : 2021年9月30日 (木) 午後2:40分頃
◇ 被災者 : 歳 (所属) 経験

【発生状況】

1階熱源機械室内のステージ足場上で冷却水配管吊用のあと施工アンカー打設時にハンボタイプの探知機で天井スラブを確認後、ハンマードリルにて削孔中に天井スラブ内に埋設された打ち込み配管に接触し電灯配線を損傷し、1階熱源機械室(工事場所)、隣接するインク室(使用頻度少)の照明が点灯しない状況となった(怪我等の発生なし)
※応急処置として仮設のスタンプ式照明器具を設置済。
工場の稼働に影響なし。



((休業見込日数 日))

(その他) (インフラ)5階床スラブ配線切断事故

◇ 発生日時 : 2021年10月13日 (水) 午後2:25分頃

◇ 被災者 : 金属工 46 歳 (所属) 経験 7年6ヶ月



【発生状況】

5階床スラブ上耐震補強要スラブ切り作業を行う事前作業として、既存鉄骨実測用のコア抜き(50φ)作業中乾式コア抜きドリルを使用して別途業者による埋設インフラはないという情報とリーダー探査を行っていたが電気配管の感知はなかった為、埋設配管はないと思いきスラブ埋設配管を切断し、建物内4F通信機械室のハロゲン化消火設備が発泡した。

() (休業見込日数 日)